



とのやま

【学校教育目標】生き抜く力を身につけ、自ら輝く生徒の育成

【目指す生徒像】自立のために自律できる生徒



富士見台中学校HP

「公」と「私」を知り、自らを律する

先週行われた学校総合体育大会においては、これまで学んできたことを発揮し全力で取り組む姿に感動しました。試合に出ている生徒はもちろん、試合に出ていないからこそ、目の前で戦っている仲間に大きな声とアクションで応援する姿も多く見られました。

28日（土）には地区大会、また、7月の県大会に出場する人もいます。出場する皆さんには、富士見台中の代表としてのプライドを胸に、全力を尽くしてくれることを期待しています。

さて、先日、教室訪問をしたときに、以下のような場面に出会いました。

- ・先生がプリントを配り始めた途端、多くの生徒が近くの人とおしゃべりを始めた。
- ・プリントを受け取りすぐに名前を書いたり、内容を確認したりする生徒は少なかった。
- ・配られたプリントを指さしながら、ひそひそと話をしている生徒もいた。
- ・先生が説明を始めるまで、静かになることはなかった。

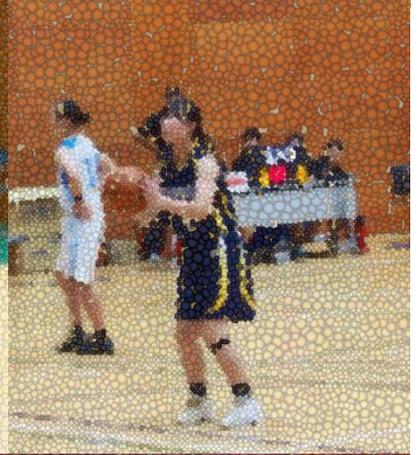
先生がプリントを配っている時間も授業の一部です。プリントは授業に必要な資料ですから、配布されたら名前を書いたり、内容に目を通したりするのが、学びに向かう生徒本来の姿ではないでしょうか。また、プリント配布中に分からないことがあったとして、それを解決するために近くの仲間と話をしている行動は、「学びに向かっている」と思えるかもしれませんが、その瞬間は、自分だけの「分かってほしい」という気持ちを優先しており、これは「私的な欲求」を「公」の場に持ち込む行動と言えます。

授業中は「公」の時間であり、教室は「公」の場です。それはみんなが一緒に学ぶための時間と空間です。一方で、「私」とは、自分自身の欲求や考え、個人的な気持ちを指します。授業中という「公」の場では、たとえ学習に必要な理由であっても、自分の個人的な欲求を満たすための会話は、「公私混同」となります。授業中はみんなが学ぶ大切な時間です。だから、自分の「こうしたい」という気持ちがあっても、それをちょっと我慢して、周りのみんなのことを考えて行動することが大切です。プリント配布中におしゃべりをする行動は、「私」の欲求を優先するものです。その瞬間の行動が「公」の秩序を乱す可能性があるため、この場面では控えるべきなのです。もちろん、分からないことを解決することは良いことであり、友達と助け合うことも素晴らしいことです。しかし、それをやるタイミングや場をわきまえることが大切です。授業中には、「公」の秩序を守り、周囲の雰囲気に配慮した行動を心がけることが求められます。

このような小さな行動の積み重ねが、やがて皆さん自身の姿勢や結果につながります。些細な日常の中には、自分自身の成長や価値観が反映されています。そして、そうした日常の一つ一つが、周りの人たちから信頼される土台となり、その土台こそが、すべての成功への道を切り拓く力となるのです。

今日の授業も、皆さん自身の未来をつくる一歩です。一つ一つの行動に意味を込めて、よりよい自分を目指し、自らを律していきましょう。

この便りは、保護者の方にもお渡しして読んでいただけてください



学総での
皆さん、
光り輝いて
いたぞ！

